

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第7週（2月15日～2月21日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに増加」

第7週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は991例であり、前週比1.1%増であった。前年同週比では40.7%減（2020年 第7週 1,672例）であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.20、0.66、0.55、0.32、0.13であった。

感染性胃腸炎は前週比2.1%増の628例で、南河内5.06、中河内5.05、大阪市南部4.41、泉州3.90、豊能3.09である。

RSウイルス感染症は前週比24%増の130例で、大阪市北部4.79、大阪市東部1.20、中河内0.90である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比7%減の108例で、中河内1.10、泉州0.95、大阪市南部0.82であった。

咽頭結膜熱は前週比13%減の26例で、大阪市北部0.29、中河内・大阪市西部0.20であった。

インフルエンザは6例で、定点あたり報告数は0.02であり、昨年同週（2020年 第7週 3,486例）に比して著減した状態が続いている。

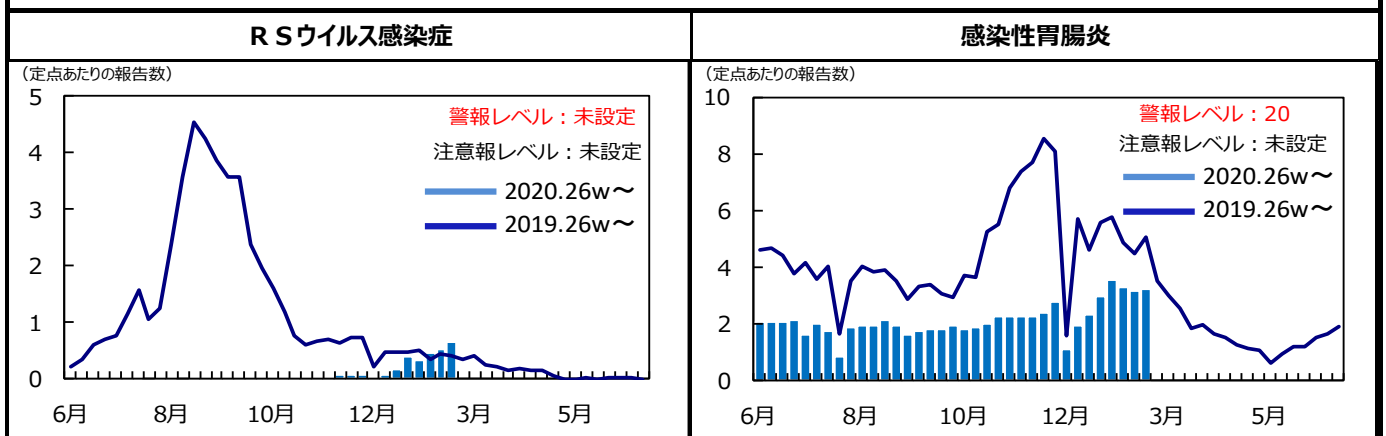


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第7週2月15日～2月21日）

第7週の順位	第6週の順位	感染症	2021年 第7週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第7週の 定点あたり 報告数	2021年第7週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.20	2%増	4.47	1歳_17%
2	3	RSウイルス感染症	0.66	24%増	0.44	1歳_38%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	7%減	2.44	10-14歳_18%
4	4	突発性発しん	0.32	5%減	0.24	1歳_52%
5	5	咽頭結膜熱	0.13	13%減	0.35	1歳_31%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.02	200%増	11.62	7歳_33%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2020年第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第7週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2020年の梅毒報告数は、2018年、2019年を下回っている

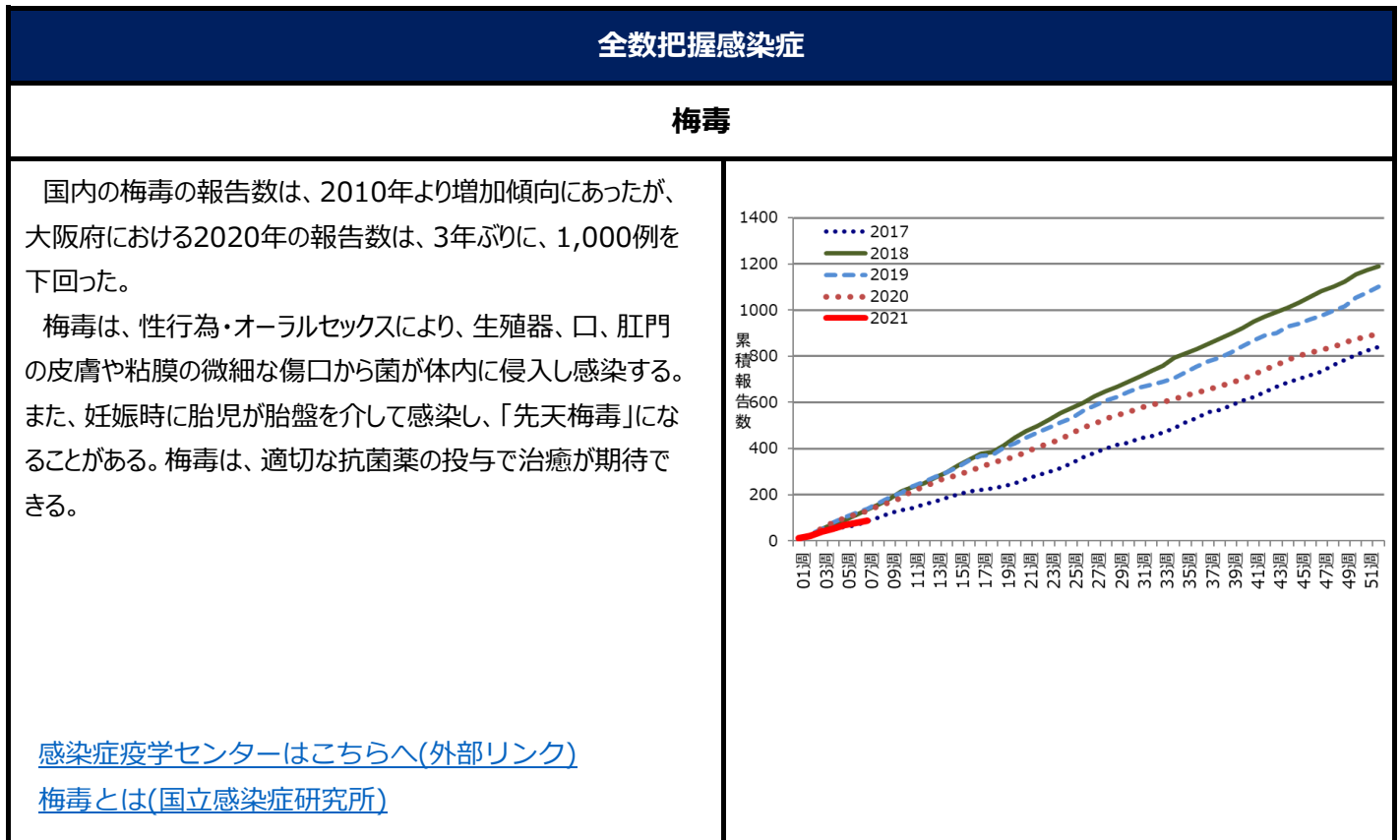


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第7週2月15日～2月21日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
		4 類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1						
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2						1	1	16
	急性弛緩性麻痺	1		1						2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1	2
	後天性免疫不全症候群	1							1	8
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1		1				8
	梅毒	10					1		1	8
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	634	2020年1月以降 累計 46,581							
結核 (2020年12月分)	結核 新登録患者数：114名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 39名) (府内累積報告数 1,416名、内 肺・喀痰塗抹陽性 543名)									

(2021年2月23日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)